

形

forme

「教科書特集」
中学校三年間の
美術で伝えたいこと



日文の実践事例、教科情報

詳しくはWebへ!

日文

検索

开 + ミ

Nr.06

かたちについて、ここで、あらためて。



concept & design: Kazuhisa Yamamoto (Donny Grafiks)
movie: Daisuke Kitayama (THREE IS A MAGIC NUMBER Inc.)

特集

美術で伝えたいこと

中学校三年間の

美術に一生懸命な子どもを、
先生を応援したい。
それは「形」も教科書も同じ。
一人一人の生徒に向き合う先生、
その先生に寄りそって聞こえてきた
「中学校三年間の美術の授業で伝えたいこと」。
先生のどんな声を聞き、新しい教科書で、
どう形にしたのか、ご紹介します。

photo: Yujiro Ozeki

経験から推測して手先が 惰性で動いてしまわないように

脳科学者の茂木健一郎氏がテレビ番組で、何かが腑に落ちたときや、ふとしたきっかけからのひらめきによって「アハ体験」ができると話していました。私も「アハ体験」を授業で大切にしています。

それは、既成概念でがんじがらめの考えを取り払い、フラットな状態で物事を考えてみることから出発することを意味します。例えば、モチーフを見て描く課題。描き進めるにつれて対象を見ることが減り、いつの間にか頭で描いている子どもがいます。リ

ングはこういうものだ、今までの経験から推測して手先が惰性で動いてしまうのです。それでは目の前のものを描いているとは言えません。目の前の対象はこの瞬間にしか存在しないという尊さに気づいたとき、その特徴を描き始めることができます。

私自身も、「アハ体験」を子どもたちから学ぶことがあります。例えば、あらかじめ考えていた授業の内容が、子

どもたちの発見などによって別の方向に展開してしまうことも多くあります。私自身が既成概念に凝り固まっていたことを痛感するとともに、題材を考えるのにこの上ない発見になります。そのような相互の学びができる今を大切に、日々美術室で授業を行っています。

私たちの経験は、生きる上で欠かせない強みでもあり、時に足かせとなることだってあります。その意味で「アハ体験」は心にインパクトを残し、自己実現に向かう原動力になるのではないのでしょうか。どんなことにも先入観を持たず、心豊かに取り組んでくれる人になってもらいたいと願って止みません。

新鮮な視点で とらえよう

風景をいろいろな見方で表そう

ポイント

- 身近な場所をいつもとは違う視点で見ることに関心を持つ。
- 見方を変えることで得られる新鮮な感動から主題を生み出し、省略や強調、変形などによる効果を考えて、表現の構想を練ろう。
- 表現意図に沿った画面の構成、視点の組み合わせ、コラージュなど、表現方法を工夫して表そう。
- 新鮮な視点で表現された作品のよさや美しさを味わおう。



パルセロナの間壁（撮影：キーン・ヴァス／101.6x223.5cm／1988）

リチャード・エスタス（アメリカ・1932〜）
前半の位置で撮影した写真をもとに、空想に思える壁や人、見下ろした風景など、違う視点からの風景を組み合わせて一つの画面に描いている。

「北の川」水鏡映り台

（多摩美術大学・展／36x24.4cm）1987

「魚」

（多摩美術大学・展／36x24.4cm）1987

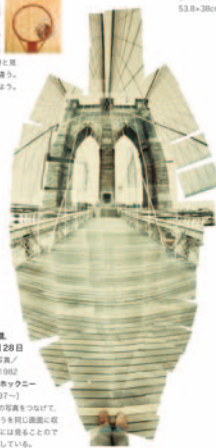
大きく描かれた魚の横と、小さく見下ろすように描かれた風景との対比で、遠近感が強調されている。

風景をとりえる空想を工夫したり、手前と奥を対比させたりして、作品の構図を考えよう。

近所画のトンサマバツが、海と対岸の陸地をみつめていた。
【写真／サイズ可変】2001 藤村賢（島根県・1939〜）
海の目の奥で撮影し、まるで海が見ているのと同じ風景をとりえようというように描かれている。



同じバスケットボールでも、見上げる時と見下ろす時で奥行きの印象が異なる。奥の印象が遠く、奥の印象が近づくように奥行きを表現しよう。



ブルックリン橋
1982年11月28日
【コラージュ・写真／100x57.9cm】1982
アイザック・ミケルソン
【イギリス・1937〜】
橋の違う複数の写真をつなげて、足元と橋の隅の隅を同じ画面に収めている。空間には奥行きのある空間を表現している。



「通り」
【コラージュ・写真・色紙／36x27cm】
いつもの通り道を歩く歩行者の動きを、1枚だけ切り取った写真に、奥へ奥へとつながる空間を表現している。



「自転車」
【アクリル・紙／53.8x38cm】
自転車を描く



「線」
【アクリル・紙／27x38cm】
幾何学的な線と自然の風景を、中心にあるものを描き、奥行きを表現している。



「線」
【アクリル・紙／38x54cm】
幾何学的な線と自然の風景を、中心にあるものを描き、奥行きを表現している。

いつもとは違う視点で見ることで、新鮮な感動が得られます。2・3上の題材「新鮮な視点でとらえよう」

新しいものを生み出していく 発想こそが大切

「中学校三年間の美術、一五時間。この三年間をもつて、全員が美術の授業を受けられるのは人生で最後となります」。一年生の最初の美術の授業で、私が語っていることです。逆に私に課せられているのは、生徒たちが中学校を卒業するころ、「美術」にどういったスタンスで向き合う人間になっているか、ということを常に意識しながら授業に臨むことです。

大人になって、制作を続けていく生徒はごく少数です。しかし私の思いは、美術とは一部の人々のみ存在するものではなく、誰もが日常生活で、ちょっとした美術の感覚を働かせることで、より豊かな人生を送るために欠かせないスパイスのようなもの、ということなのです。

そのような意味で、自分の筆入れを選ぶことがすでに美術の始まりである、ということから、一年生の最初の授業をスタートします。三年生では、デザインを一新して地

域を活性化しようというプロジェクト型の学習も行っています。「ものづくり」から「ことづくり」という言葉があるように、技術の有無にかかわらず、新しいものを生み出していく発想、アイデアこそが大切、ということを強調しています。

三年生の最後の授業で感想を書いてもらいますが、「身の回りのコマースやポスターに目がいくようになりました」「自分のこだわりのものを見つけていきたいです」「発想力を生かして働きたいです」などの言葉に励まされ、新たな授業に取り組みエネルギーをもらっています。



2・3下「魅力が伝わるパッケージ」掲載の生徒作品。生徒が提案した包装紙が、実際に地域の商店で使われた例を取り上げています。身近にある、デザインのはたらきを実感するきっかけに

らくがきは創造の原点

「今日はらくがきをしながら、見たことのない形を生みだそう」。抽象画やイメージ画、デザインのアイデアスケッチ等では、よくこの言葉から始まります。初めは○や□のような単純な形からスタートして、変化・発展させて描いていくうちに、当初は予想すらしなかった形が生まれてきます。まさしく、形そのものが命を得て進化を始めたかのごとくに。コッは、消さないことです。前のものがなくなれば次の発展は望めませんから。これは進化論の理論と同じです。

デッサンのような再現描写に自信が持てない生徒も、らくがきでは、面白い形をほめられると、はじめは紙を覆い隠すように描いていたのが、だんだん調子になると手が大きく動き出し、身体的な動きも加わり、目が輝いてきます。自分の中の障壁になっていた何がしかを飛び越えたり、壁のようなものを突き抜けたりする感じを体験するのでしょ

う。生徒のこの瞬間に立ち合う喜びがあるからこそ、この仕事を続けられているようにも感じます。

こうして生み出されたものは、すべて自分の中から出てきたのであり、無意識が色と形に表現されたものです。そこには、自分の知らないものが、世界に一つしかないものを生み出す尊い存在としての自己との出会いがあり、自己肯定感へつながると信じています。

言葉をしゃべる前の子どもはクレヨンがあればどこにでもらくがきをします。その原始的な欲求や喜びを失うことなく、自由に表現し続けていくことが、人生をより豊かにしていくことにつながるはず

心でとらえたイメージ

印象や感情を形や色で表そう

心でとらえたイメージ
印象や感情を形や色で表そう

【制作】
[油彩・キャンバス] / 102×130 cm / 1963
[国立西洋美術館蔵]
[制作経緯]
橋本武彦
[制作年次] 1911～1963
戦争や社会不安などに起因する苦悶から、戦後の新しい世界を表現しようとした。

心でとらえたイメージを、形や色で表現することによって心を表現しよう。
イメージをもとに、形や色を単純化や強調するなどして構成を工夫しよう。
材料や技法の特性を生かし、表現方法を工夫して表そう。
イメージなどによって形や色で表現しているか、作者の工夫が感じられるか。

心でとらえたイメージ
印象や感情を形や色で表そう

【制作】
[油彩・キャンバス] / 102×130 cm / 1963
[国立西洋美術館蔵]
[制作経緯]
橋本武彦
[制作年次] 1911～1963
戦争や社会不安などに起因する苦悶から、戦後の新しい世界を表現しようとした。

アイデアスケッチから発想を広げよう

心でとらえたイメージから思い浮かぶ形や色を、まずはメモのように書いてみましょう。そこから、形や色の組み合わせ、どんな材料を使うかを考えよう。

アイデアスケッチから発想を広げよう
心でとらえたイメージから思い浮かぶ形や色を、まずはメモのように書いてみましょう。そこから、形や色の組み合わせ、どんな材料を使うかを考えよう。

【制作】
[油彩・キャンバス] / 102×130 cm / 1963
[国立西洋美術館蔵]
[制作経緯]
橋本武彦
[制作年次] 1911～1963
戦争や社会不安などに起因する苦悶から、戦後の新しい世界を表現しようとした。

アイデアスケッチから発想を広げよう

心でとらえたイメージから思い浮かぶ形や色を、まずはメモのように書いてみましょう。そこから、形や色の組み合わせ、どんな材料を使うかを考えよう。

アイデアスケッチから発想を広げよう
心でとらえたイメージから思い浮かぶ形や色を、まずはメモのように書いてみましょう。そこから、形や色の組み合わせ、どんな材料を使うかを考えよう。

【制作】
[油彩・キャンバス] / 102×130 cm / 1963
[国立西洋美術館蔵]
[制作経緯]
橋本武彦
[制作年次] 1911～1963
戦争や社会不安などに起因する苦悶から、戦後の新しい世界を表現しようとした。

アイデアスケッチから発想を広げよう

心でとらえたイメージから思い浮かぶ形や色を、まずはメモのように書いてみましょう。そこから、形や色の組み合わせ、どんな材料を使うかを考えよう。

アイデアスケッチから発想を広げよう
心でとらえたイメージから思い浮かぶ形や色を、まずはメモのように書いてみましょう。そこから、形や色の組み合わせ、どんな材料を使うかを考えよう。

【制作】
[油彩・キャンバス] / 102×130 cm / 1963
[国立西洋美術館蔵]
[制作経緯]
橋本武彦
[制作年次] 1911～1963
戦争や社会不安などに起因する苦悶から、戦後の新しい世界を表現しようとした。

美術の授業では、目には具体的には見えない印象や感情も表せます。
2・3上の題材「心でとらえたイメージ」

生徒たちは、 夕日の美しさを知っていた

「身近な美しさを伝えるために、あなたは何をしますか」私は、教員採用試験の面接時にこう質問されました。「夕日を見せます」私はこう答えました。この試験で私は教員採用試験に合格しました。そのため、この時の回答は自分では正しいものであったと思っています。

しかし、数年が経ちそれは違うことに気付きました。

ある日、生徒に何気ない会話の中で「今何が見える。」と聞きました。話の流れは忘れましたが、私は周りのビルや看板の名前を挙げることを期待していました。ところが、生徒からの返答は「一番、夕日が見えます」

また、ある日の部活終了時、私の横を通りかかった生徒がこう伝えてくれました。「先生、今日の夕日はキレイですね」

そうです。この生徒たちは、夕日の美しさを知っていました。忙しくしていたこの時の私に、生徒が身近な美しさを

教えてくれたのです。試験で「夕日を見せます」と言ったのは、私の驕りだったのです。資質の本来の意味においては、さまざまな固定観念がない分、子どもたちの方がその才能を発揮しやすく、素直に美しさを受けとめられるその心には決して勝てないと思っています。ただ、その美しさを感じた心を表現するときに、うまく相手に伝える方法を知らないだけなのだと思います。私は、子どもたちがその資質を形や色彩などの表現や言葉で伝える方法を、日々の授業を行い、少しずつ伝えていきたいと思っています。そして、子どもたちが身近な美しさを伝え合えるような友人や仲間を増やしていけるよう期待したいと思っています。

一瞬の 光をとらえて

刻々と変化する風景をとらえる

雲の切れ間から差す陽の光、雪が降り始める瞬間のきらめき。私たちが暮らす空間は、天候や季節、時刻などによって変わるさまざまな光に彩られ、その時、その瞬間でしか見ることのできない美しさがあります。

- 学びのねらい
- 天候や季節、時刻によって光の表情が変わることに関心を持ち、自然の光の美しさや変化などから感じ取ったことをもとに発想を広げ、表現方法の選択、色彩や構図などの構成を練ろう。
 - 色彩や明暗、影などの特徴をとらえ、材料や用具の使い方を工夫して、光の美しさを表そう。
 - 自然の光をとらえた作品のよさや美しさ、表現の工夫を感じ取ろう。

自然の表情から感じ取った美しさやぬくもりに、あなたの思いを重ね合わせてみましょう。そして自分の創意を大切に、表現方法を工夫しましょう。



太陽 [油彩・キャンバス] 45.2×78.8cm 1911～16 オーストリア国立美術館(ウィーン) エドヴァルト・ムンク [ノルウェー・1863～1944] 白色の太陽から、色の線で表された太陽光が放射状に広がり、海や空が豊かな色味で染められている。自然の美しさや生命力が感じられる。



光の温かさや光の輝きなど、色づかいを工夫して表現しましょう。



流線作品 ミステリー〜水たまりの中の世界〜 [写真/サイズ可変] 暗い空間の中で、光が降り注ぐ様子です。空をそのまま描くのではなく、大きな水たまりに映った空を写りました。空がくもっていて、太陽が出てきた感じがはっきりわかる写真になりました。空もあるの、夏なのに雲が降っているようにも見えます。



流線作品 日ざかりの公園 [アクリル・紙] 38×54cm



流線作品 [鉛筆・水彩・紙] 37.7×53.7cm 親子の窓から差し込む光の輝きも、壁に映された影で表現した作品である。

光を表現した作品の鑑賞については2・3上P20～21「光が生むリアルとドラマ」を見よう。

モネの連作

モネは時間や季節によって刻々と変わる光と大気をとらえるため、同じモチーフによる連作という方法をとりました。一瞬たりとも同じ表情を見せない風景を、色彩を変えて表現しています。



ルーアーン大聖堂、夜明けの正面口とアルバン橋 [油彩・キャンバス] 106×74cm 1893 オーストラリア美術館(メルボルン) クロード・モネ [フランス・1840～1926]



ルーアーン大聖堂、太陽の光景 [油彩・キャンバス] 100×95cm 1893 ボストン美術館



ルーアーン大聖堂、夕暮れ [油彩・キャンバス] 100×85cm 1894 ブリタニヤ美術館(ロンドン)

感じ取った自然の美しさに、自分の思いを重ねる方法を磨いてほしい。
2・3下の題材「一瞬の光をとらえて」

十五歳の時の彼らが、
今の彼らを励ましてくれる

自分で撮影した写真に詩を組み合わせる題材に取り組んだ時のことです。あまり美術

し、作品に込めた思いを解説する場面では涙ぐむクラスメイトもいました。

身が入らなかったAさんが「大人になった私は、結婚して子供が二人、ずっと一緒にいるのがいいんだよね……。そんなのできるかわからないけどさ」と話してくれ

る」「発見し、新しいことに気がつく」「感動や驚き」「挑戦し、乗り越える」という、人の成長に大切な活動の連続です。それをAさんもやり遂げたのだと感じました。

ました。そして、四本の木が並ぶところを撮りたいと。両端の大きな木がAさんと旦那さん、間の小さな二本の木は二人の子ども。校庭や公園を探しましたが、びつたりくる木が発見できません。大切な未来の夢を形にしたいと焦っていたある日、「先生、いいこと考えた！色鉛筆を立てて撮るよ。青が旦那さん、ピンクが私、オレンジと緑が私の

先日、Aさんとその仲間から成人式後の同窓会のお誘いをいただきました。こんな日が来ようかと、学年全員分の写真作品とワークシートを保管しておきました。ビックリするだろうなあ、恥ずかしいだろうなあ。未来へのまっすぐな夢が表現された美しい作品。十五歳の時の彼らが、今の彼らを励ましてくれるとワクワクしています。

まよめの相互鑑賞会では「やらなくてもいいのよ」と声をかけましたが、堂々と発表

響き合う
言葉と絵
書くと描く

私たちは感じ取ったことや自分の気持ちを、言葉にして表すことがあります。そして言葉の意味だけではなく、文字の形や色もさまざまな印象を引き起こします。言葉を絵などと重ね合わせて、新しいイメージを生み出しましょう。好きな言葉から発想を広げたり、絵を描きながら言葉で伝えたいことを考えたりしたら、文字の形や色も工夫して、あなたの気持ちを表現しましょう。

言葉の意味や絵に込める思いに合わせて、文字の表現の仕方や配置を工夫しましょう。

- 言葉と絵を書き合わせる表現活動に関心を持つ。
- 言葉の意味やイメージをもとに表した主題を明確にし、表現の模範を練る。
- 主題に合わせて、書く対象と言葉の組み合わせや文字の形や色、配置の仕方を見学しよう。
- 作品に込められた思いや意図を味わい、よさや美しさにしてて話し合おう。



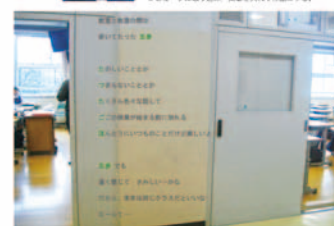
生涯作品
満開の笑顔
【巻・水彩・和紙／31.5×42.5cm】
満開の花に笑顔を重ねて見た作者の温かな気持ち、たっぷりの墨でおおらかに書かれた文字から伝わってくる



生涯作品 朝にすすむんだ[水彩・ボール紙・紙/54×38cm]
 朝の光に映えながら、文字の裏面に工事が隠れる



写真を使った表現に取り組んだ。校内を撮影した写真の中から、テーマに合うものを選ぶ。選んだ写真をコンピュータに取り込み、文章を入れて作品にする。



生徒作品 たった五歩 [写真・コンピュータ/21×29.7cm]
教室の四の壁を背景に、色の違う文字をつなげるとタイトルになるという工夫をし、
よりの教室との距離というテーマを寓している。



『宮庭道』より
『黒むらさきの』の機
〔表紙・彩色／29×62.7cm〕1901
機方本坊(記念館蔵〔青森県〕)
機方本坊〔青森県・1903～75〕
機方本坊は、詩人の草野功平が
富士山をテーマにつくった16
篇の詩から発想して、『宮庭道』
の連作書面に取り組んだ。詩の
直す横線や力強いV字を、鮮や
かな色と面画いっぴいの文字で
表している。



Sunny
『ソフトグラウンドエッチング・
グワッシュ/30×20cm』2006
山本雪子(埼玉県・1952〜)
兄への感謝を歌った曲をもとに
している。音符と一体になった
動物の絵の下に文字があり、楽
曲のようになっている。

ふだん口にはできないことも、手紙だとすなおに書けることがあります。美術も似たところがあるように思います。言葉と絵を重ね合わせると……。

2・3 上の題材「響き合う言葉と絵」

「技」「モノ」「こと」

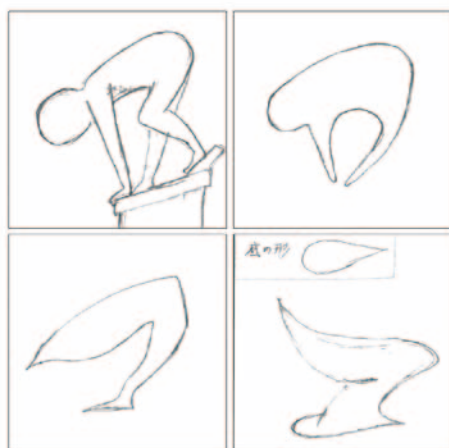
中学三年生の授業中、最後の自由制作について生徒が相談に来ます。アイデアスケッチを私に見せながら「画面の中央には三年間使った野球のグローブをスケッチして、背景部分にはこんな技法を使います」と語ってくれます。そういう時、「なぜそれを描きたいと思ったの?」「それを描くことで、その技法を使うことで何を表したいと思ったの?」などと尋ねることもしばしばです。

私は「技」「モノ」「こと」の三つを常に意識して作品制作の授業や美術部の指導をしています。上記の生徒は、使いたい「技」と描きたい「モノ」までは考えてくれたようですが、本当にやりたい「こと」や、表したい「こと」にまでは届いていなかったようです。

次の週、この生徒が「三年間でボロボロになったグローブに、自分が感謝している『こと』を表したいです。それが感じられるような背景や技法に変更します」と言ってくれ

た時は大変うれしく感じました。しかしすべての生徒がこのように「本当に表したい『こと』」をスムーズに見つけられるものでしょうか。なかなか指導の難しさを感じます。

さまざまな教材や表現方法が開発される中、「何をつくたか」「何が生徒の興味を引くか」という話題が尽きません。しかし、生徒が「どう思っているのか」「何を願っているのか」という主題生成や構想の指導は、まだまだ奥が深いようです。「本当に表したい『こと』」を見つけたら、生み出したりできた生徒は、それを実現するにはどうすればよいかを主体的に試行錯誤します。つまり「こと」の指導は難しくとも、美術教師の避けて通れない道なのではないでしょうか。



生徒作品 アイデアスケッチ(部分)

[鉛筆・紙/29.7×21cm]

水泳のスタートの姿勢を単純化、省略して構想を練った。



生徒作品 [石こう/7.8×14.5×7.8cm]

作者の言葉 土台の部分を強調して「地面でふんばっている!」という感じを出しました。

絵がうまくなった、だけでなく、 学ぶものを実感し自覚する

昨年、三年生の最後の授業で、美術の授業でどのような力が身についたと思うか、生徒に聞いてみました。多かったのが「想像力」「表現力」「工夫する力」「考える力」など。これはつまり、発想や構想の能力に関連した力で、それが過半数でした。例えばある生徒の回答は「ひとつの物事を見るときに、たくさんの方が見ることができるような力が身についた。また、想像力がとても豊富になり、それを日常生活や学習でも生かすことができた」。美術の授業は楽しかった、絵がうまくなった、ということだけではなく、想像力が身についたなど、美術を通して学ぶものを実感し自覚できると生徒が増えてきたのではないかと思います。

なぜつくるのか、どうやってつくるのか、この形や色は何を表そうとしているのか、などを生徒に問いかけ続け、あくまで生徒自身の意思で主体的に考えて自己決定することを授業の柱にしてきた成果か

な、と思います。大人が考える美の規準に照らして作品の完成度を高める指導も必要かもしれませんが、私は生徒が自分の意思で価値を見いだせるように指導することを基本にしています。ある生徒に言われました。「美術の授業ではとにかく考え続けた……」私が授業を通して伝えたいことは何なのか？改めて考え、生徒にこう伝えました。「学校の学習活動で、いろんな人と協力して、新しいものをつくりあげ、新しい価値を見つけて出すことの素晴らしさを実感するには美術の授業しかない。将来どんな道に進んだとしても、表現したり、鑑賞したりすることを通してほしい」



**あなたへ
〜中学校美術からの巣立ち〜**

あなたは きょうまで
心の中に湧き上がってきた思いを
形や色に込めて表したり 味わったりする学びの中で
新しいものを生み出す楽しさ
すばらしさを実感してきました

あと数日で終わりを告げる 中学校での学びの時間
でも あなたの“美術”は終わりません

たくさんの思いや気持ち
よいもの 美しいもの
そして 自分の能力……

今まで学び得たことは あなたの一生の友として
人間らしく 自分らしく生きていくことを
あなたの内側から支えてくれるはずです

心のアンテナを大きく大きく広げ
もっと新しく もっと魅力的な世界を
生み出していきましょう
すてきな手と目と技を
磨き続けてください

となりの友 世界の友人
それぞれが大切にしている
美術の文化について語り 感動を分かち合い
その存在を心から認め合える人になってください

あなたが これから出会う未来の友人と
力を合わせ ともに幸せを築こうとする
優しく あたたかく 美しい心を持った人に
成長することを
心から願っています

春が舞う[写真/サイズ可変]2009 平井隆也[東京都・1967〜]

花吹雪でかすむ列車を見た時、鳥影が立ちました。
幾億幾千もの春が風に舞って飛び、季節がまた動いていきます。

中学校美術で何を学んだのか、自分の生き方のどんな糧になるのか。卒業していく生徒たちに伝えることが大切だと考えました。
2・3 下掲載「あなたへ〜中学校美術からの巣立ち〜」

自己が見えてくる 厳しさと向き合ってほしい

中学時代の三年間、子どもたちは大きく成長します。大きめの制服で、目をキョロキョロさせながら入学した、三年前の幼かった子どもたちは、いつの間にか私の背丈を越えていきます。身体もですが、卒業式の一人一人の頼もしい表情に現れる精神的な成長が、卒業という別れの儀式を揺るがざるものになっているかのようです。

三年生の日常は、それまでとは違う、大きな変化を見せてくれるように思います。生まれて初めて、自己の適性に沿って進路選択を迫られる十五歳ということもあってか、明らかに二年生とは、自己の責任観や客観性、そうした内面に違いが生じます。教師には「育み」という意味で喜ばしいですが、個々の生徒にとっては、厳しい面も含まれます。厳しいけれど、私は美術の教師として、特に自画像を描くとき、子どもたちに自己が見えてくる厳しさと向き合ってほしいのです。逃げよ

うがない現実の自分と抱いた夢との葛藤は、自画像を描くという学習を通して、「生きる」厳しさを学ばせ、大きく彼らを成長させます。

ある時、いつまでたっても自分を表現できない生徒がいました。友達は彩色を始めたのに、彼は下書きのアイデアと格闘しています。いつしか鉛筆の擦れた色で画面の一部が真っ黒になるころ、さすがのワトソン紙も鉛筆と消しゴムの摩擦で音をあげ始めました。未完となった彼の自画像、しかしそこに描かれた目は、しっかりと前を向きこちらを見すえていました。彼が二年生のときには描けなかった世界が、そこに確かに存在したのです。

静かな対峙の後に、夢をつかめる成長した自分がみえてくることを伝えたいものです。



2・3下掲載の生徒の自画像「変えたい」。
自画像は自己を深く見つめる三年生に
取り組んでほしくて、より三年生向きの
2・3下に掲載しています。

中学校三年間の学びに寄り添う教科書



著者
対談

岡山大学 大橋功 × IPU・環太平洋大学 村上尚徳

中学校の三年間は、子どもが大きな成長をとげる大切な時間です。新しい教科書も、その大きな変化に合わせて、美術にできることを提案したいと考えました。そのコンセプトと特徴について、著者のお二人にお話をうかがいました。

大橋 私は「学びのステージ」というコンセプトで、平成二十四年から使われている中学校美術の教科書の編集にかかわりました。新しい教科書では、村上先生にも加わっていただいて、子どもの成長をイメージした時、一方向のベクトルではないというところからコンセプトを深めました。

村上 美術の授業では、例えば自己を見つめる自画像を描いたり、生活の場面で気になる風景を描いたり、ポスターで社会に何かを訴えたりします。子どもを取り巻く環境を考えると、自己があり、生活、社会とのかかわりがある。それを教科書でも幅広く押さえる必要があると考えました。

大橋 自己についても、中学生になると、他者とのつながりで自分を見るようになります。さらに、一年生には一年生の自己の見つめ方があるし、三年生には三年生の見つめ方がある。認識力が違いますからね。この発達と美術の学びがどう関

係しているのかと考えた時に、表現や鑑賞を通して自分の内面世界が広がっていくんですね。自己から他者へ、さらに社会へ、といったように。しかし、これは常に自己との往還の中で広がっていきま

村上 自己を見つめることで自己が深まるのは当然ですが、身近な人を描く時に、なぜその人を選んだのか、自分にとってその人はどんな人なのかを考えることも自己を見つめることにつながります。

大橋 一年生の題材「身近な人を見つめて」ですね。これは他者。けれど同時に「身近な人を表すことは、その人をより深く理解するとともに、その人に対する自分自身の気持ちに向き合うことにつながります」と書いてある。他者を見つめつつ、自己に返ってくるということを伝えたいのです。

村上 あるいは、ポスターで何かを訴えようという時に、何を訴えるか、なぜ自分がそれに関心をもつのか考えます。社

会的なものを題材にしますが、それを考えることで、自分にはこういう価値観があったんだ、こういう思いがあったんだと改めて気づく。このように社会を見つめることは自己を深めていくことになると考えます。

大橋 最初にも言いましたが、自己から社会への意識の広がりはもちろんありますが、それは一方向での発達段階ではない。内面世界が自己に向いたり、外に向いたりする、方向づけですね。なので教科書も、三冊でさまざまなテーマの題材を設けています。

村上 学習指導要領で考えると、A表現(1)は自分の感じたことを表す、つまり自己。そこには他者や風景を見て感じたことも含まれます。(2)になると、目的や機能。自分が使うものをつくることもありますが、他者が使うものや他者に伝えたいこと、社会に発信したいこともあります。このように美術の領域自体が自己から社会までを扱っています。



渡り廊下 美術1「なぜか気になる情景」掲載

生活の中でどこが気になるだろう?と考えると、友だちの作品を見ても、たしかにそれ気になるよね、となる。絵がうまいへたではなくて、どんなところに感じて、発想したのかという、授業の中の価値観として共有できるんですね。(村上)



自転車を除く 美術2・3上「新鮮な視点でとらえよう」掲載

教室で床に新聞紙を敷いて、寝転がって見るとどうなるかとか、やりましたね。日常で見落としてきたところに、新たな視線を向けていくんですね。(大橋)

学年に適した学びを

村上 先ほどもありましたが、同じ社会について考えるといっても、中学一年生

大橋 自分が感じたことを表す時、この形や色でよかったのか考える、つまり自己を見つめる活動です。同時に教室では他の人の作品が見える。そこで、自分とは違ってこんないいところがあるんだとなれば、他者に視点が広がると言えます。社会に対しても、これはあかんと思うことを伝えたくて、美術やデザインで何ができるか考える。

自己や社会というのは、自分にとって「美術すること」の意味を見いだしていくための視点なのだろうと思うわけです。

と三年生では認識力が違います。それぞれの学年で必要なこと、深まる学びを押さえることが大切です。

絵の題材を例に見てみましょう。一年生の「なぜか気になる情景」は、普段見慣れた情景の中に、ちょっと気になるところがあるんじゃない?と呼びかけます。例えば階段の手すりの塗装がはがれた模様が気になるとか。このように生活の中で自分は何が気になっているのだろうか?と考えることで主題が生まれます。普段見慣れたものを見つめ直すことで、面白さや美しさなどに気づく。これが美術との「出会いと広がり」だと考えます。

大橋 空間を切り取ってやることの面白さが一年生ですね。二・三年上の「新鮮な視点でとらえよう」になると、視点に

軸を置きながら、自分が感じ取ったことを加味した表現をするようになっていきます。

村上 視点による効果を学び、構想がよく練られています。知的な理解も生かして表現意図とそれに対する工夫を自分でしっかり意識している、それが「学びの深まり」だと思います。

大橋 学年に適した学びを配列する、いままでも教科書は二・三年生を上巻と下巻にあえて分けてきたのもそうした理由からです。

三年生で大きく変わる学び

大橋 学習指導要領では二・三年生は一つになっていて、これは二年間でカリ



家族のやさしさ 「美術2・3下」掲載



飛躍 「美術2・3上」掲載



フルーツパイ 「美術1」掲載

対談 著者

キュラムを考えてよい、ということですが、しかし子どもが美に出会い、学びを深めていくということを考えると、やはり順序性はあると思います。

村上 指導案で生徒観や題材観を書くように、まず生徒の実態をとらえて、題材を考えますよね。例えば自画像。二年生になったばかりの時期に描くのと、受験期の葛藤を抱えた三年生に描くのでは、やはり違いますね。

大橋 自画像で背景を工夫させるなどすると、本当にいろいろな表現が出てきますよね。三年生になって、自分がこうありたいとか、自己実現への強い欲求が芽生えてきた時に応えられる場をどうやって提供できるかという、まさに美術だと思っんですね。そこを保障することによって、やっぱり中学生にとって美術って大事なんだねと。

村上 美術の学習は、生徒の心や知的な理解力の成長と深く関連しているのので、教科書が学年を意識した題材配列になっていることが重要です。特に、三年生まで美術が必修教科であることを考えると、三年生に必要な美術、三年生にならないと十分理解できないこと、身につけにくいことを押さえて指導することが大切です。

私自身の体験でもあります、小学校の修学旅行で京都に行って仏像を見てもあまり面白くない、どちらかというと退屈でした(笑)。それがある程度年齢がいってから見た時に、金箔もはげてきれいではない仏像から、何か美しさを感じました。人間は心も成長していくし、考え方も成長していく。ある程度年齢がい

かないと理解できないものはあると思うんですね。

仏像を含む日本美術については、国立教育政策研究所がアンケートを行っている、それを見ても三年生にならないと分からない美意識や価値観があると思います。各学年二千人ほどを対象にしたアンケートで、日本の美術文化を理解すること「好きか」「できたか」という質問に、肯定的に答えた生徒は二年生が四〇%あまりだったのが、三年生では半数を越えるのです。

文化と言う時に、一つの作品だけ見ても分からない。ある国のある時代の複数の作品を見て、そこから共通の美意識や精神を感じ取って、初めて文化は分かるんですね。そういうことが分かるようになる年齢が中学三年生なのだと思います。また、目に見えるきれいだだけでなく、見えない美しさも感じ取れるようになり、それを大事な価値として追求しようとする。これが三年生の「美の探求」だと考えます。

大橋 私からは彫刻の題材を例にお話ししますと、一年生でストレートに対象をとらえます。量感でとらえて量感で表す、立体的な表現の基礎です。そして二・三上で動きの表現。さらに抽象彫刻をやりたいとなった時、先ほどの仏像の話とながらと思います、抽象的な美をさらに理解して表現するには、三年生がベスト。だから下に載せているわけです。

教科書は子どもにとって分かりやすいことも必要だけれど、先生にとっても三年間の学びの流れの中での位置づけが見えてくるということも大切ですね。だから二・三年上で二年生向き、下に三年生向きの題材を多めに配列しています。どの段階でどの題材をやるかの目安にもなると思います。

村上 美術で感性が豊かになると言いますが、ただ見る、描くだけでは不十分です。描くこと、つくること、見ることを通して、「あ、こういう視点でとらえること、考えることができるんだ」といろいろな視点に気づくことで初めて、子どもの中にアンテナが立っていくんですね。一年生で立つアンテナもあれば、三年生でないとなかなか立てられないアンテナもある。それが、生活の中の造形や美術に豊かにかかわる力を育てるということ、中学三年間で美術を学ぶ理由にもなるのだと思います。



大橋功 おおし・いさお

岡山大学・大学院教授。実践美術教育学会会長、日本美術教育学会事務局長なども務める。大阪市立中学校で教えた後、佛教大学、東京未来大学を経て現職。それぞれの発達段階における子ども理解に根ざした学習指導のありかたについて研究している。



村上尚徳 むらかみ・ひさのり

IPU・環太平洋大学教授。岡山市立中学校教諭、岡山県教育庁指導課指導主事を経て文部科学省教科調査官、及び国立教育政策研究所教育課程調査官、平成二十年の中学校美術・高等学校美術・美術・工芸の学習指導要領作成を担当した後、現職。



福岡県柳川市に伝わるひな祭りの飾り「さげもん」。和紙を材料に張り子の技法でつくられる。
「美術2・3下」P.37掲載

伝統文化から 今を見いだす

富士山、和食、富岡製糸場、和紙……
日本の伝統文化が続々と世界に認知され、
国内外での関心が高まっている。
ところでこれらを継承していく子どもたちは目頃、
どれだけ伝統文化に触れ、理解しているだろうか。
富士山の世界文化遺産登録の立役者として知られる
前文化庁長官の近藤誠一さんに、一部に和紙を使用した
新版の美術教科書をご覧いただきながら、
伝統文化を学ぶ意義や美術教育の在り方などについてうかがった。



芸術科目における教師の役割

「まず言っておきたいのは、子どもたちが美術や音楽などの芸術に触れる時間が絶対的に不足しているということですよ」

日本の伝統文化が世界的に注目されている昨今。「しかしそれを日本の子どもたちが学ぶ環境は果たして整っていると言えるでしょうか」と、近藤さんは強い調子で問いかける。「例えば授業時間。今さら私が言うまでもありませんが、中学二、三年生は週一時間、つまり一週間にたった五十分です。感性の下地をつくるべき多感な時期にこれではあまりに不足しています」

芸術は正解のない教科であり、点数をつけるのも難しい。また優劣をつけるものでもない。しかし、親でも気づかないような子どもたちの才能に気づけるチャンスが潜んでおり、大変意義のある教科だと近藤さん。「芸術の授業は、子どもたち一人ひとりの関心や情熱、夢などを引き出せる大切な教科だと思います。そのため重要なのは、先生方が子どもたちに『教える』ことではなく、子どもたちを『助ける』ことだと考えます」

近藤さんは、芸術科目での先生の役割は「ファシリテーター」だと考えている。「最近、ミーティングやワークショップなどで耳にすることも多いでしょう。ファシリテーターとは何かを『手助け』する人のことです。芸術の授業で大切なのは、先生方が子どもたちの才能を引き出す『手助け』をすること。その上で、子どもたちの才能がいかに発揮され

たか否かで評価すべきなのです」。自分を表現できた子どもの作品こそ評価されるべきで、見本どりの作品を、自分を押し殺してつくったとしたなら、それは優れた作品とは言えないと近藤さん。「もちろん、そうした役割を理解されて授業なさっている先生も多いことでしょう。それでも、まだ足りない。もっと定着して、保護者の方々にも芸術科目の大切さを理解していただく必要があります」

アーティストとつながる場

そして近藤さんは、学校以外でも子どもたちが芸術に触れる機会をつくってほしいと願う。「もちろん芸術科目の授業数が増えるに越したことはありませんが、どうしても時間的な限界はあるでしょう。そこで、地域や職場、家庭で積極的に補ってあげてほしいのです」。地域で補えることとは何だろうか。

今、文化庁長官時代から近藤さんがその取り組みを提唱、推進してきた「アーティスト・イン・レジデンス」が盛んになっている。「二〇一三年、熊本の講演会に招かれまして、阿蘇の雄大な景色を見れば、きつとさまざまな芸術家の創造力が喚起されるに違いない、そうお話ししたところ、同席されていた蒲島知事が反応してくださって、翌年の夏にはもう『アーティスト・イン阿蘇』が立ち上がっていたんです」。二〇一四年は七カ国から七人のアーティストが招かれ、阿蘇に七十日滞在して創作活動を行った。その傍らで、地元の小・中学校で子どもたちを対象にワークショップを行ったり、秋



2014年11月、「和紙：日本の手漉技術」がユネスコ無形文化遺産に登録された

祭りに参加して地元住民との交流を図ったりと、アーティストたちはさまざまな形で地元とかわった。

「海外のアーティストと触れ合うことは、子どもたちにとって大きな刺激となったでしょう。アーティストたちは肌で日本を感じて、日本人の価値観や精神性、つまり日本の『空気』を理解してくれます。そしてそれを自分たちの言葉に翻訳し、海外に発信してくれる貴重なスポンクスマンです。そうした彼らの目線を知ること、子どもたちが自国の文化や芸術についてあらためて気づくことも多かったのではないのでしょうか」

近藤さんは、インドネシアからイスラム学校の先生方を日本に招待した時のことを、鮮明に覚えているという。「二週間ほど日本に滞在した先生方が、印象深かった比叻山についてこう仰ったのです。『あの山には神々が宿っている。これこそ日本人の心の原点なのだと分かりまし

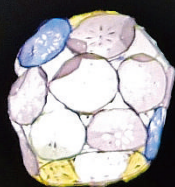
た』と。一神教の信仰心篤いイスラム教の方が、です」

実際に日本に来たからこそ分かることがあり、本物を見て、知って、触れてこそ理解できることがある。それは何も外国人に限った話ではない。私たち日本人でさえも、日本の伝統文化に触れる機会はそう多くない。せっかく世界に認知され始めた日本の伝統文化に、子どもこのから触れる機会を設けることが、この先、子どもたちの人としての質の向上に大きく寄与していくだろうと近藤さんは語る。

本物に触れられる教科書

では家庭では、子どもたちが芸術と触れ合う機会をどのように設ければよいのだろうか。「芸術はハードルの高いものばかりではありません。いいものはいくつものとして感じ、触れ、日々の暮らしに取り入れていくことが大切です」。週末に美術館へ足を運ぶ、食卓で先週見た絵の話をする、家族みんなで音楽祭に参加する。決して高尚なことではなく、もっと身近に感じることを第一歩にしてはどうかと近藤さんは語る。「何か一つでも本物の、伝統的で価値あるものを、子どもに身近に置いてあげるといいですね。ものを大切にしようという気持ちとともに、ものを見る目も養われます。伝統の中に今を見いだし、今の中に伝統を見いだす。それこそが『目利き』です。目利きができてこそ、本物のクール・ジャパンですよ」

そうした視点で見れば、美術の教科書



〔美術 2・3下〕 P.35 掲載の和紙を使った生徒作品。伝統はさまざまに形を変えながら受け継がれていく

に和紙を用いたページがあることは大変意義深いと近藤さん。「特に、浮世絵が原寸大で掲載されているのがいいですね。和紙はユネスコの無形文化遺産に登録が決まったばかりですし、今とても注目度が高い。子どもたちも、こうして教科書という媒体で気軽に本物の和紙に触れられ、また和紙に印刷された原寸大の浮世絵を見られるということは、自らの感覚を磨くことにつながると思います」。一色ずつ摺り重ねていく浮世絵の制作工程が、写真で丁寧に紹介されているのもいいですねと笑顔を見せる近藤さんは、つい最近海外の美術館で同様の展示を見たことがあるそうだ。

和紙の手触りを楽しむように教科書のページをめくる近藤さんが、伝統工芸が紹介されているページで手を止める。「漆、友禅、そしてもちろん和紙もそうですが、日本には本当にすぐれた伝統工芸がたくさんあります。そうした素晴らしいものを、子どもたちにたくさん紹介してあげてほしいですね。こうしてすぐれた伝統工芸を多数扱っている教科書を見ても、すぐにそのすごさはわからないかもしれない。でも、いつか大人になって本物に触れたとき、これは教科書で見た「あれ」だ、と思いつくことでしょう。そうやって伝統文化に対するハードルを下げ、本物に親しむための下地をつくってあげることが大切なのです」

最後に、近藤さんのお宅ではどのように芸術に触れる機会を設けていたのかと聞くと、近藤さんは懐かしむようにこう語ってくれた。「とても些細なことかもしれないませんが、我が家では年中行事を大



新しい美術教科書の、原寸大の浮世絵が和紙に印刷してあるページを見る近藤さん

切にしています。お正月、節分、ひな祭り、七夕……。日本の文化や季節、多様な伝統工芸を通じて、日本人としての心を養ってほしいと願いつづけてきました。先ほどの浮世絵もそうですが、今回拝見した新しい教科書には、日本の伝統文化がさまざまな工夫された形で表現されていました。授業を通じ、子どもたちは身構えずにそれに触れることができ、自国を知る日本人としてしっかりとした輪郭がつくられれば、その上に刷り重ねられる学びもさらに彩り豊かなものとなっていくでしょう」

近藤 誠一 こんどう・せいいち

第二十代文化庁長官。一九四六年神奈川県生まれ。外務省に入省後、ユネスコ日本政府代表部特命全権大使、駐デンマーク特命全権大使を歴任。文化庁長官としては、富士山とともに三保松原を世界文化遺産登録に導いた。現在、東京大学大学院特任教授、東京芸術大学客員教授など兼任。著書に『FUISAN 世界遺産への道』など。

先 ず 見 る 之 凡 目 凡 第九回

赤富士の背後に見えるもの

「兵どもあまた具して山へ登りけるよりなむ、その山を『ふじの山』とは名付けける」

日本最古の物語とも言われる「竹取物語」の最後に登場するのをはじめ、日本のさまざまな芸術にインスピレーションを与えてきた富士山。美術も例外ではなく、葛飾北斎の手がけた「富嶽三十六景」の《凱風快晴》は誰もが一度は目にしたことがあるだろう。

私たち「アダチ版画研究所」は浮世絵の伝統木版技術を継承し、復刻版を制作している。そこでこの浮世絵の魅力を、どのように制作されているのかという視点から考えてみた。

浮世絵は江戸時代、庶民に人気の役者や名所などを描き、主に木版画で大量に出版された、今というポスターなどの商業印刷である。版元が企画を立て、絵師、彫師、摺師が分業で専門技術を駆使し、制作されていた。北斎は絵師として、商業印刷ゆえの条件の中でいかに才能を発揮している。

例えば制作コストを抑えるために、浮世絵の版木は五枚前後、摺りも十回から二十回が多い。これを《凱風快晴》は版木が三枚、摺りの回数も七回と極端に少ない。これは一枚の版木でも、画面に複雑な効果を与えることができる摺師の技術を最大限に生かそうという、絵師北斎の計算である。「富嶽三十六景」の多くの作品に使われる摺りの技術に、色のグラデーションを出す「ぼかし」がある。《凱





《風快晴》では、山腹の赤と裾野の緑とが重なる部分や山頂の茶褐色の部分など、山全体にほかしを生かし、赤富士の雄大な姿を表している。

絵の具にも注目しよう。青い部分には、当時、ヨーロッパから日本に入ってきた顔料のプルシアンブルーが使われている。ベルリンで製造されたので「ペロ藍」とも呼ばれる絵の具だ。ヨーロッパ由来だが、その発色は浮世絵独特になる。というのも、油で溶いた絵の具をキャンヴァスに塗る油彩に対して、浮世絵は水で溶き、摺師が和紙の繊維の中に馬連で摺り込むことで、鮮やかな色や木版画独特の風合いを出しているのだ。例えば、青にこだわったゴッホの絵などと比べても面白いだろう。

北斎をはじめとする浮世絵は、江戸の庶民だけでなく、西洋の人々をも魅了した。西洋産の絵の具を取り入れ、新たな表現を得た日本の美術が、西洋で新鮮に受け入れられ、ジャポニスムという新しい運動が起きたのは、文化が東へ西へと行き来する中で、人々がそのエッセンスを積極的に学んだからこそその結果だろう。伝統木版技術のような、伝統文化などを継承するというこの意味も同じだろう。子どもたちには、目の前にある文化が、さまざまな人が世界や歴史から学び築いてきたものであるということを感じてもらいたい。

アダチ版画研究所

浮世絵に培われた伝統木版技術を高度に継承した職人のかえ、木版画の制作出版をおこなっている工房兼版元。浮世絵版画の復刻をはじめ、源氏物語絵巻に代表される大和絵、墨絵の再現、日本画巨匠の木版画作品、現代アーティストの作品等数多くの木版画作品を発表し続けている。

アルルの跳ね橋（ラングロワ橋）（部分） [油彩・キャンヴァス／54×65cm] 1888 フィンセント・ファン・ゴッホ [1853～90]
クレラー＝ミュラー美術館蔵 「美術1」P.4 掲載

ガイド

と

サポート

美術の教科書の役割

明治学院大学教授 新井哲夫

中学校における美術教科書の役割

教科書とは、教科書の発行に関する臨時措置法（第二条）によれば「教育課程の構成に応じて組織排列された教科の主たる教材として、教授の用に供せられる児童又は生徒用図書であつて、文部科学大臣の検定を経たもの」を意味します。「教科の主たる教材」、「生徒用図書」としての美術の教科書には、特に重要なものとして、以下の三つの役割があると思います。

①学習指導要領の具体化

学習指導要領の美術の目標や内容は包括的・大綱的に示されています。そのため、実際の教授に際しては、それを具体化し、「教育課程の構成に応じて組織排列」した教材が必要になります。そのような教材が「教科の主たる教材」としての美術の教科書です。したがって、美術の教科書の最も重要な役割は、学習指導要領の教科の内容を適切かつ魅力的な形で具体化し、充実した学習が展開できるようにすることです。

②授業のガイド、学習のサポート

美術の授業では、他教科のように教科書を中心に授業が進められることはあまりありません。特に表現活動では、導入時に活動への動機づけや方向づけとして教科書が用いられ、活動中に一斉に活用される場面はあまりありません。「教科の主たる教材」としては、はなはだ心許ない気もしますが、美術の教科書の役割はそもそも他教科の教科書とは根本的に異なっています。それはテキストブックというよりも、ガイドブックに近い役割を担っていると思うのです。

例えば、鑑賞活動において教科書の図版や解説文が重要な役割を担うことは当然ですが、表現活動においても生徒はしばしば発想や構想のアイデア・ソースとして教科書を利用します。また教師も、授業の計画を立てる際、教科書の題材を重要な手がりとして利用しています。つまり教科書は、生徒にとっても教師にとっても、美術の学習をガイドしたり、サポートしたりする役割を果たして

いると言えるでしょう。

③最も身近な情報源

教科書は、生徒にとって美術やデザインの魅力に触れることのできる身近な作品集であり、資料集です。教科書の図版を見るだけで、美術やデザインの魅力や広がりを感じることができます。子どもが頃使った教科書を、大人になっても大切に保存している人は少なくありません（私もその一人です）。授業の枠を越えて、日常生活の中で教科書を通して美術やデザインの魅力に触れることは、少なからず美術の学習を支える環境づくりにもなっているのではないのでしょうか。

新しい教科書の特徴

新しい教科書には、美術教科書に課せられた役割をこれまで以上に果たし、中学校三年間を通して充実した美術の学習が可能になるように、さまざまな工夫がなされています。

内容構成上の工夫についてみると、新



身近な人に贈るメッセージカード、学校祭のポスター、パッケージデザインと、デザインの目的や条件が広がっていく

しい教科書には以下のような特色が見られます。

①三年間の学習の積み上げと発展・深化を重視した題材構成

各領域・分野ともに、三年間を通じて、美術の学習が自己↓生活↓社会、自然、環境へと広がり、そして積み上がるように題材が構成されています。例えば、「デザインや工芸などに表現する活動」では、文字やカードのデザイン（一年）、サインやビクトグラム、ポスターやブックカバーのデザイン（二・三年上）、パッケージや環境のデザイン（二・三年下）というように、目的や条件を自己↓生活↓社会、自然、環境へと広げながら、デザインの意味や役割について体系的に学び、理解を深められるように構成されています。

このような三年間を見通した学習の積み上げと発展・深化のプロセスを具体的な形で、明確に示すには、三分冊による内容構成が適切であり、不可欠です。

②題材相互の関連性の重視と巻末資料の充実

新しい教科書では、三年間の学習を効果的に積み上げられるように、学年や領域・分野を超えた、題材間の関連性が重視されています。また、授業のガイド、学習のサポートとしての役割を強化するために、巻末に色彩や技法、鑑賞資料などをまとめた資料ページが設けられています。

③図画工作との連続性や美術を学ぶ意味の重視

各分冊のオリエンテーションを充実させ、一年では図画工作の学習との連続性を重視しています。また、三年間の表現

や鑑賞の学習を通して、美術やデザインの意義や役割について生徒一人ひとりが自らの考えを深められるように配慮されています。

④道徳との関連性の強化

道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性は、学校の教育活動全体を通じて養うことが求められています。表現を通して自己を見つめ、他者を思いやること、鑑賞を通して個性豊かな表現にふれ、美しいものに感動することは、道徳教育につながる美術の学習の重要な要素です。新しい教科書では、道徳教育と関連する題材には、ページ左下に緑色の文字で、意識させたい道徳の内容を記しています。

⑤美術の持つ社会的な役割や機能の重視

二〇一一年の大地震は、東北地方を中心に地域社会や人々に甚大な被害を与えました。「情報をわかりやすく伝えよう」（二・三年上）や「デザインで変える現在と未来」（二・三年下）では、防災や災害からの復興支援、地域に根ざした課題改善などに貢献するデザインの事例を取り上げ、美術のもつ社会的な役割や機能について学習し、美術のもつ力に対する認識を深める機会が設けられています。

以上は内容構成上の主な特色ですが、その他にも、これらの特色を最大限に生かすために、製本上の工夫が図られています。

⑥判型の見直しによる視覚効果の向上

美術の教科書の重要な魅力は、図版の美しさにあるでしょう。美しい図版を通してこそ、美術作品へのあこがれや表現活動への意欲も高まります。新しい教科

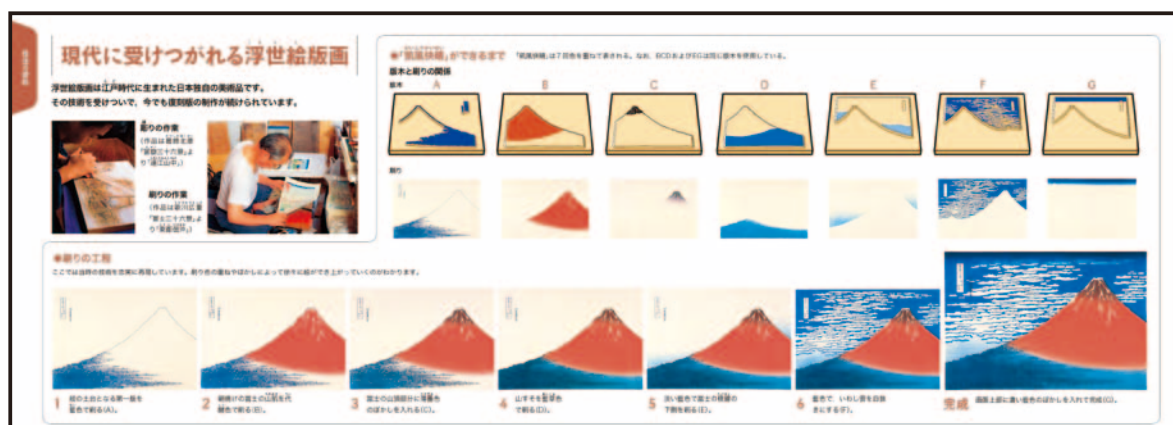
書では、従来よりも横に大きい判型を採用し、一部に折り込みなども採り入れながら、図版がより美しく効果的に掲載されています。また「東へ、西へ：」（二・三年上）では、本物の浮世絵版画の雰囲気を感じ取れるように、葛飾北斎の「富嶽三十六景」の《神奈川沖浪裏》《凱風快晴》の二点の図版が、和紙に原寸大で印刷して掲載されています。

教科書からのメッセージ

中学校の三年間は、義務教育課程において美術を必修教科として生徒全員が学ぶ最後の機会です。その貴重な三年間の美術の授業をガイドし、学習をサポートするのが美術の教科書です。

中学校に進学してきたばかりの一年生にとって、図画工作から美術への教科名の変化は、美術に対して日常生活からかけ離れた「むずかしそうな教科」という印象を抱かせるかもしれません。一年の「出会って広げよう」や「図画工作、そして：美術へ」は、そうした生徒たちに対して、「心配はいらないよ。図画工作の経験を生かして、楽しく学習しよう」という招待状です。また、二・三年下の「あなたへ」中学校美術からの巣立ちへは、三年間の美術の学習を終えて、新しい世界へ旅立とうとしている三年生に贈る祝福のメッセージです。

新しい教科書に込められた著者や編集者の願いが、美術を指導する先生方や生徒たち一人ひとりの心に届くことを願ってやみません。



浮世絵を原寸大で掲載した2・3上の巻末資料には、浮世絵版画の制作工程を掲載。彫りや摺りの工夫を知ること、学びが深まる

授業実践

学びのフロンティア

中学校 2・3 年生向き

色と形で自己紹介

思春期の自己表現を抽象で

東京都西東京市立ひばりが丘中学校 長尾菊絵

はじめに

「僕は絵が下手だから」「私は美術のセンスが無いから」。多くの中学校美術の先生が生徒たちのこのセリフに悩みながら様々な手だてを考えていることと思います。まさに、ロー



エンフェルドらの言うところの「表現における思春期の危機」です。発達段階における価値観の破壊と再構築の中で、自己開示することへの抵抗感と、描写表現への過度のこだわりから解放し、どんな生徒ものびのびと自分を表現する喜びを感じさせたい。「色や形で感情が表現できる」という既習事項を発展させ、発泡スチロールの板を切った形を組み合わせて、彩色したりしながら、抽象表現で自己を投影した半立体作品を制作します。抽象表現にすることで、描写表現へのこだわりから解放できると考えました。

授業実践

導入では「嬉しい」「悲しい」「優しい」「意地悪」などの基本的な形から展開して、「辛くて悩んでいる形」「夢に向かって努力している形」など、複雑な感情を表す形をワークシートに描き、友達の形を黒板で



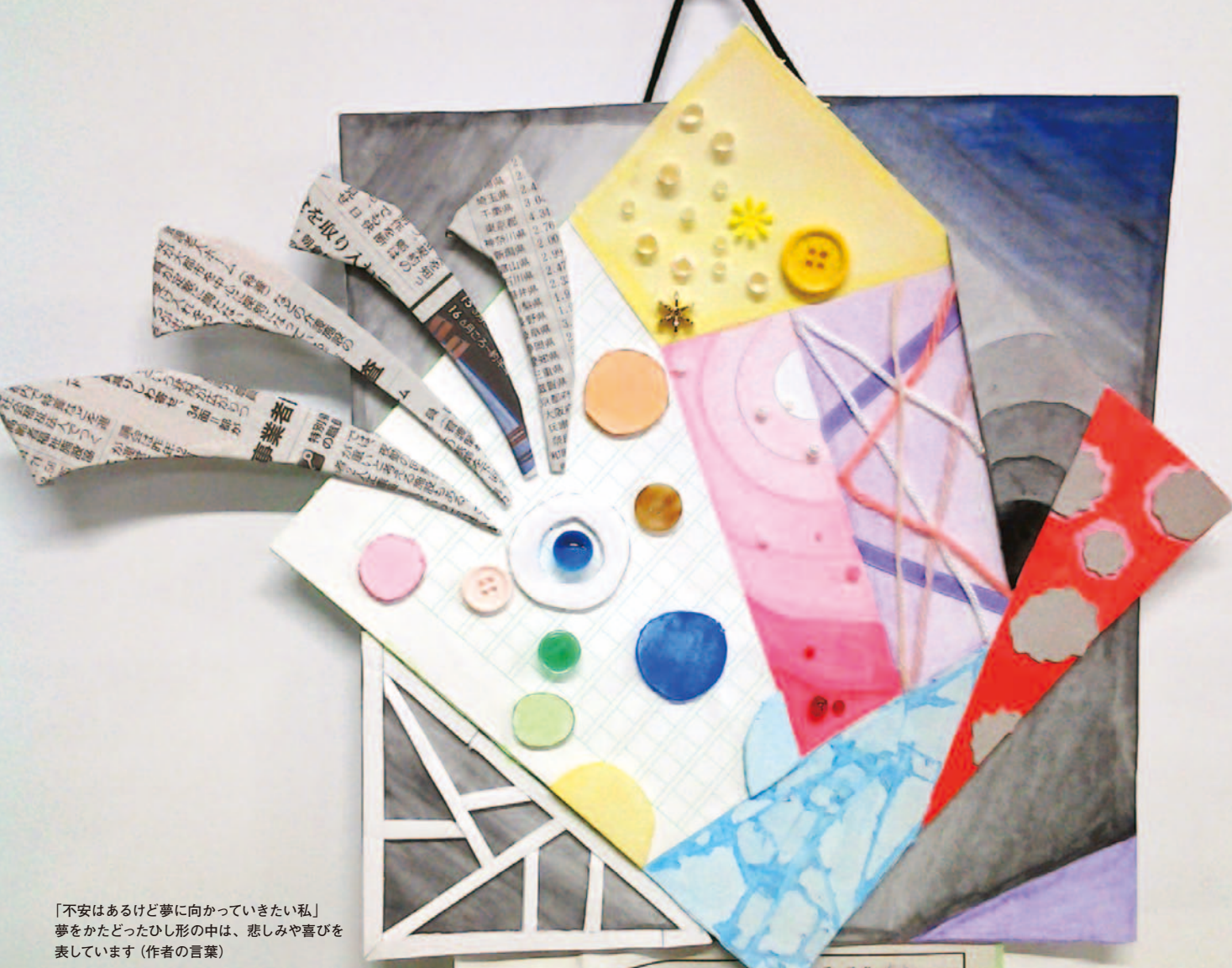
シェアします。「形で気持ちを表すなんて無理と思ってたけど、友達の間を見てみると、意外と伝わる。不思議で面白いと思った」などの感想がありました。

自己紹介（主題）の内容を考え、アイデアスケッチをします。この場

面では多くの生徒が「考えつかない」と、苦しみます。しかし「今、自分が好きなこと」「悩み」「将来の夢」など、具体的に挙げさせていくと、生徒たちは「紹介したい自分」を見つけることができました。それでも発想に困っている生徒には、「○○だけど、××なボク」のように、人間の持つ多面性に焦点を当て発想させると安心したように手が動いていました。

アイデアスケッチを基に発泡スチロールの板を切り、彩色します。そこで生徒たちは「この部分は発泡スチロールではなく、別の材料のほうが効果的」ということに自分で気がついていきます。必要に応じて様々な材料を持ってくることもありました。「この形は落ちこんでいる自分なので、ペットボトルを切ってガラスが割れたようにしたい」「夢に向かう強い魂を表す形を、金属で表したい」などと、具体的な構想が生まれます。





「不安はあるけど夢に向かっていきたい私」
夢をかたどったひし形の中は、悲しみや喜びを
表しています（作者の言葉）

指導計画

時間	10 時間
領域	A 表現 (1) (3)
材料・用具	鑑賞教材（ピエト・モンドリアン 《ブロードウェイ・ブギウギ》等）、 スチレンボード、絵の具、カッター、 その他材料
学習目標	●自己を見つめ主題を生み出し、心豊かに表現する構想を練る。 ●表したい感情に応じて新たな表現方法を工夫したり、制作の順序を考えたりしながら表現する。
主な学習内容	自己紹介と色や形の表情が響き合うように構想し、形の構成、描き方などの表現方法を工夫して表す。表現と思いが響き合うように工夫した点を、造形的な視点を根拠にして話す。
主な評価の観点	●想像したことを表現することに関心を持っている（関心・意欲・態度） ●イメージを膨らませて主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、構想を練っている（発想や構想の能力） ●表したいイメージに応じて材料や用具の生かし方などを考え、創意工夫して表現している（創造的な技能） ●作者の主題と表現技法の選択などを感じ取り自分の思いや考えを持って味わっている（鑑賞の能力）

おわりに

作品相互鑑賞会では「内面に関わることなので、言いたくない部分は省略していいです」と声をかけましたが、生徒たちは作品の力を借り自分の思いをたっぷりと語りました。クールで無口な男子生徒が「この形は隠している熱い思い」「もっとと優しさを表したいと悩んでいる形」と作品の紹介をする、クラスから大きな拍手がおこり、この生徒のめったに見られない笑顔を見ることができました。

のためでなければ、こんなに多くの子どもたちと「あなたの内面」について掘り下げて話をする機会はないと思います。他の教科でも無いのでは……と思います。美術はそういった意味でも心を大切にする貴重な教科だと感じました。制作にのめり込む姿を多くの生徒から感じることができました。思春期まったただなかの生徒たちが自己表現にチャレンジし、他者の想いや多様な個性を感じ取り、生徒を取り巻く様々な色や形の世界が、感情を持って話しかけてくることに気がついて欲しいです。

1

127,122,064

文：田野隆太郎

写真：新井卓

第九回

春日明夫

美大を卒業しても、美術一本で食べていける保証はどこにもない。
ならば、美術を近くにとどめられる教師の職につき、
制作を続けることだってできる。
だが、「教育」は単に糊口の手段でしかないのか。
ここに、その両方で成果をあげた人物がいる。
なぜ彼は「教職」を捨てなかったのか。

芸術家は異端だからこそ、社会のさまざまな問題に、時に思いもよらぬ問いを投げることが出来る。そして、膠着しがちなわたしたちの思考に変化を与えてくれる。

だが普段、芸術家は社会のことなど、それほど気にしていないだろう。社会に有益なことを考えれば考えるほど、作品の切れ味は鈍ってしまう。彼らは芸術の世界で名を残すこと、つまり自分にしかできない表現を掴むことに最大限時間を使いたいと考えているはずだ。わたしたちが考える以上に、芸術家は自分本位に生きている人たちではないだろうか。

ここに、三十七年にわたり美術を教え、同時に作家としても活動してきた人物がいる。春日明夫、現在は室内建築専攻で子どものためのデザインを教える大学教授だ。

生まれは、東京の板橋。少年期はちょうど昭和三十年代。辺りは遊び場で溢れ、子どもたちは遊び道具を自分たちで作っていた。

「道具を作っても『いいな、それよこせ』と、先輩に取られることが多かった。でもまた新しいものを作る。それでもまた『よこせ』。嫌だったけど『上手く作ったから取られたんだ』と、心の中で喜んでましたね」

先輩たちの中では、取り柄がないと生き残れない。そこで、彼は自分を生かす手段のひとつとして、「芸」の存在に気づいた。

もちろん絵を描くのも好きだった。

貸本屋で漫画や少年雑誌を借り、チラシの裏に模写した。手塚治虫の漫画をプロ級に模写する友人がいて、負けずに描いたが全く似ない。得意だと思っていたことで能力の差をつけられショックだったが、決して友人を褒めたくはなかった。

小六の時、その友人と、描いた漫画を手塚に見せるという無謀な計画を立てた。三百枚の絵が入った段ボールを自転車の荷台に括りつけ、アポ無しで仕事場に持参。主は外出中だったが、粘っていたら運良く帰ってきた。白いティーカップに紅茶。それと、モンブランという名のケーキ。応接室のテーブルに、見たこともないものが並んでいた。勧められたが、緊張で手が伸びない。手塚は友人を「上手だね」と褒めた。早熟な彼は、手塚に弟子になりたいと伝えたが、まずは基本のデッサンが必要だと諭された。春日は、「君らしくていい絵だね」と言ってもらった。今思うと、手塚の模写から出発した絵が、たまたま下手で、ただの真似に終わってしかなかったからかもしれない。

自分が美術の世界に向いているかどうか分からない。しばらく、絵とも疎遠だった。だが高二の時、例の友人にばったり出会い変化が起きる。彼に当然のように芸大に行くのかと問うと、法学部に進路を変えたという。啞然としていたら、春日も進路を聞かれ、芸大に行くと言言してしまふ。口からでまかせだった。要は、負けん気がそう言わせたのだ。

通い始めた予備校ではいつも下位。美術に必要な体力をつけるしかない。だから、石膏デッサンと油絵の基礎を繰り返した。この時彼にとつての美術とは、キャンバスに油絵を描くこと。「絵描きになりたい」。ライブルに口走ったでまかせから、なぜか純粋な思いが芽吹いていた。

結局、二浪した。入ったのは、東京造形大学の絵画科。その頃は、現代美術に惹かれるようになり、映像表現にも挑戦した。樹の枝に光が射し、壁などの背景に影が映っていく。映像なら、光景のすべてをとどめられる。テーマは、時の移ろい。

絵画以外で「芸」を扱えた手応えはあったが、疑念も出てきた。自分の中にある「画家」への執着を確かめるため美術館に通った。古典絵画の前に立つと、涙が出てきた。

思い直し、再び筆を持つ。極端だが、今度は古典技法に挑戦してみたい。テンペラ、フレスコ、日本画。油絵とは違う乾いた質感が自分に馴染むような気がした。しかし、フレスコは漆喰を塗る作業が煩わしく、日本画は顔料が高価で手が出ない。もつと、土器のようなマットな画面を素早く作り出せる方法はないか。

ある教授が、輸入されたばかりのアクリル絵具の存在を教えてくれた。それに粉絵具や顔料を混ぜたらどうなるか。ひび割れの危険はあるが、成功すれば何か掴めるかもしれない。実験を繰り返した。「使える」と思うようになるまで、そう時間はかから

なかった。これは誰も手をつけたことがない手法で絵が描ける。

しかし、そのままスムーズに画家へと踏み出したわけではない。彼は、教師になっていた。絵一本の生活に不安もある中、受けた採用試験にパスしたことが大きかった。もちろん、画家への憧れはある。だから、働いて貯金したら、ヨーロッパにでも留学しようと考えていた。そんな中、新任の公立高校で、美大進学を希望する生徒たちと出会うことになる。

「まったく絵が描けないのに美大に行きたいというから驚いたね。でも、朝練するか？ と、つい言っちゃったんですよ。自分も毎朝、四時起きになるのに。そうしたら、生徒が描けるようになってくるわけです。感動的でしたね。自分みたいなろくでもないやつが一生懸命教えたから、生徒も変わったんだと思う。信頼されることは、嫌じゃない。もつと教えたいと思うようになるんです」

春日の熱意に応え、生徒も努力した。そして、ほぼ全員が現役合格する快挙となった。初めて教えた生徒たちとの間にできたこの関係を契機に、彼は教師として自分を生かす道を発見していく。

次は、東京都の公立中学に勤めた。丁度、暴走族や校内、家庭内暴力が社会問題化した頃だった。

「もう、じつとしてないですからね。生徒を食いつかせるには、どんな題材がいいか真剣でした。絵だったら上げておしまい。ならば工作がいい。

失敗しても手を動かし、もう一度トライできる。いわば、敗者復活ができる題材を考えたんです」

不良は、つまらないと暴れる。でも、その素直さが愛おしい。だから、美術を介し果敢に交わった。そうすれば、彼らも手を動かし、一生懸命返してくれた。そんな彼らには「立体」が合っている。作品の見た目は、少しくらい悪くても、内容は光るものがあるかもしれない。立体は、生徒たち自身のようだった。

生徒が特に興味を示したのは郷土玩具のからくり物だった。木こりがノコギリで木を挽き、動物が杵で餅つく昔ながらの木製の動くおもちゃ。それを参考に、生徒と一緒に木や紙で作った。工作は、幼い頃作っていたからお手のものだ。アイデアなら、独自の技法を掴もうと試行錯誤した経験から導きだせる自信がある。

多くの「協働作品」が生まれていった。もはや、自分一人のものではない。彼は、自己実現の手段と考えていた芸術の、新たな「術」を見つけた。

まもなく、国立大学の附属中学から彼に声が掛かる。題材研究を押し進めることができると、異動した。新しく提案する教材研究の論文を書き、公開授業で発表。すべてが初めてだったが、ここでも生徒が味方になってくれた。生徒の創作意欲に影響を受け、彼も教師としての勉強をもっとしたいと思いはじめた。

だから、在職しながら大学院に通うことにした。研究テーマは、「工芸

学習の視点から捉えた創作玩具」。学問として極めた者のないこの分野を専門的に研究すれば、さらに独自の題材が作れる。生徒たちと、まだ誰も作っていないものを作りたい。

中学校では二十年間教えた。その間も、朝五時に起き、絵を描いていた。アクリル絵具に顔料を混ぜた「アクリル顔彩」に、テンペラや油彩を組み合わせた混合技法。毎年のよう



に展覧会を開き、一九八七年には安井賞展に入選、賞候補にもなった。

その後、大学に籍を移し博士号も取り、造形教育や「子どものためのデザイン」を学部生や大学院生に教示。彼らを学外展やワークショップなどで積極的な子どもたちと交流させ、社会性のある作り手や指導者に育ててきた。また、教科書編集にも携わり、すべての経験を教育の場にフィードバックさせている。

画家、造形作家、大学教授、そこに教科書著者を加えると、誰もが尻込みする肩書きのように見える。彼はどれをも中途半端にせず、並立させながら、今の地位を掴んできた。

「一口で自己分析すると、やはりコンプレックスからきているものですよ。人から、春日先生はエネルギーがシュですって言われますけど、実は奥手。自分にとって自信のあるも

のは、何もなかった。浪人からなから、私の人生はすべて遅れているんです。でも、遅れていることによって物事が客観的に見える」

人生は、自分が望めば、どんな方向にも舵を取れる。もちろん、教師を辞め、絵に賭けてもよかった。彼なら食いぶちを確保しつつ、続けられたはずだ。でも、そうしなかった。なぜなのか？ 画家としての能力に限界を感じたからではないと思う。

芸術家とは、人と違う表現を作ることで自分を立脚させ、歴史に名を残したいと考える人たちのことだ。春日も自己分析したように、コンプレックスをバネにする人間も多い。人がやらないことだけをひたすら探し、それを自分に引き寄せ作品化することだってできる。

春日は、芸術家が必然的に武器にしてしまうエゴイズムというものを嫌ったのではない。同業者と距離を計り、自分にしかできない表現に執着し続ける。彼は、それが本心に自分がやりたいことではなく、芸術の「芸」と「術」を、もつと社会と接点のあることに使いたい。そう考えたのではない。すなわち、彼は「教育」というものの魅力に気づいたことで、エゴイズムを突き抜けるような喜びを得たのではない。

だが、同時にこうも言えるだろう。彼の中に、芸術家が持たねばならない実験精神があったからこそ、多くの成果を人生で掴むことができたのだ、と。若き頃、画家になると宣言し、志した道の中で、彼は芸術が誇る特徴である実験精神を掴み取った。だから彼は、人からどれだけ遅れようが、自分の道を歩くことができたのだと思う。

春日明夫 かすがあきお
一九五三年、東京都生まれ。東京造形大学教授。同大卒業後、高校、中学で教鞭を執りながら絵画や造形作品を制作。教材研究をきっかけに玩具創作の分野で博士号を取得。現在「子どものためのデザイン」として後進を指導している。長年、教科書編集にも携わる。

平成27年度版 図画工作 デジタル教科書 1・2上～5・6下

平成27年
(2015年)
3月発売

主な特長

- 用具の使い方を新規の動画で完全網羅！
- 題材との出会いを助ける多様な「導入」コンテンツ
- 教科書掲載の作品を単独で大きくわかりやすく提示

■ 価格 【校内フリーライセンス・指導者用】

- ・ DVD-ROM 4年契約版 各**43,200円** (本体40,000円+税8%)
- ・ DVD-ROM 1年契約版 各**12,960円** (本体12,000円+税8%)

※本商品は開発中です。記載している内容および仕様は予告なく変更する場合があります。



CoNETS各社共通のデザインと操作性。
どの教科でも操作に迷うことなく、
円滑な授業が行えます。

詳細は日文Webサイトへ！

予告

平成28年度版 中学校 美術デジタル教科書

平成28年(2016年)
3月発売予定

最新情報は日文Webサイトにて
順次お知らせします！ご期待ください！

スマートフォンやタブレットをかざすと動画が楽しめる！

- 1 スマートフォンまたはタブレットで、ストアアプリを立ち上げます。
- 2 「カザスマート」で検索し、アプリをダウンロード。
- 3 「カザスマート」アプリを立ち上げます。
- 4 該当ページにかざすと動画がはじまります。



カザスマート





中学3年
私をつくっているもの [水彩・紙／53.6×38.8cm]
「美術2・3下」P.10掲載



中学3年
闘志に燃えた自分 [鉛筆・水彩・紙／54.6×39.3cm]
「美術2・3下」P.9掲載

児童・生徒作品 私の見方

自分の姿を見つめて自己に向き合
い、今の気持ちを表現する自画像。
この二つの作品は、自分の見つけ方や
表現にも、さまざまな方法があるこ
と、そして、十五歳だからこそその思
いが込められていることを感じさせて
くれます。

りりしく正面を見せる作品は、
じっくり自分を見つめたのでしょう。
この生徒は、大震災を乗り越え過ご
してきた三年間を振り返り描く中で、
「これからも困難を乗り越え」「人生
を歩んでいく」という気持ちがわいて
きたとつづっています。

もう一つの作品は、こちらに背を向
けて、一見、自画像とは見えません。
しかし作者の言葉には、今まで経験
してきたことをさまざまなモノをモ
チーフにして表し、「十五年間のまと
めにしたい」とあります。この生徒は、
想像力を膨らませ、自分に向き合っ
たようです。

新しい教科書で豊富に掲載した作
者の言葉から、生徒たちの物語を感
じ取ってください。そして子どもたち
に問いかけてください。「あなたはど
う感じますか」。

形 forme No.306-2015

日文教育資料 [図画工作・美術]

平成27年(2015年)4月10日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社

〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5 TEL:06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

Cover photo: Kazue Kawase (YUKAI)

Design: Kazuhisa Yamamoto (Donny Grafiks)

CD33261

日本文教出版 株式会社

<http://www.nichibun-g.co.jp/>

大 阪 本 社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171

東 京 本 社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618

九 州 支 社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938

東 海 支 社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18-7F・B
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690